

照明灯

「農福連携」と呼ばれる取り組みが県内で広がっている。背景には後継者不足に悩む農家と障害者の雇用拡大という課題があるという▼県内の先導役になってきたのが、社会福祉法人・進和学園(平塚市万田)と聞いた。同法人の農産物加工場「しんわルネッサンス湘南工場」では4年前から障害者が働く。2年前の取材の際は、年間売り上げが倍以上に伸びる勢いだった▼近隣の農協から原料のトマトなどを購入。ジュースやピュレに加工し、農協の大型直売所で委託販売してもらおう。製品が好評で横浜の百貨店や東名高速道路のサービスエリアなどにも販路が拡大、「農福連携」の可能性も広がっていた▼加工業も注目されていた。自分たちのブランド品に加え、県内外の農家や農業生産法人が持ち込むトマトをジュースにする受託加工(OEM)だ。原料の個性を生かした味を引き出せると、持ち込みが大幅に増えていた。「農工福連携」とも呼べる▼進和はパッケージのデザインやマッチングで地元の団体と連携する。各種の農福連携の中でも、一緒に開発まで手掛けるのは珍しいらしい。連携は都市化で消えゆく県内の農の風景を守り、持続可能な地域をつくるに違いない。今後は漁業や林業との連携の登場にも期待したい。

【2018・10・11】